

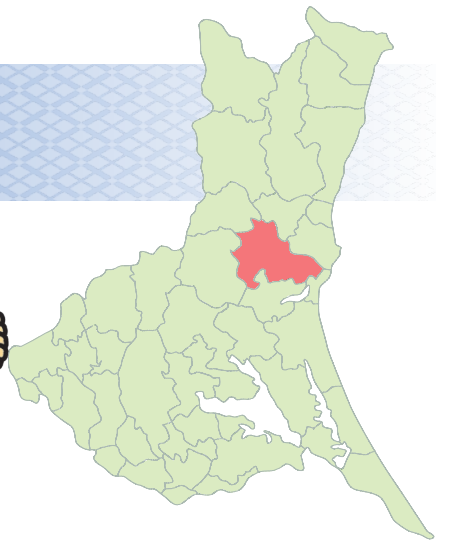
水戸市

MITO City

- 概要/人口:**269,203人**(令和5年1月時点)
年間観光入込客数:**1,616,100人**(令和3年)
- 由来/水の出入り口を意味する「水の戸」という意味の「みと」を市名としました。
- 市の花/萩
木/梅
鳥/ハクセキレイ



みとちゃん



江戸時代から本県の行政、経済、文化の中心地として発展を遂げる水戸市。市の中心部に千波湖を抱え、平成27年4月に日本遺産に認定された日本三名園の一つ偕楽園や弘道館など歴史文化遺産が数多く残されています。また、JR常磐線、JR水戸線、JR水郡線、鹿島臨海鉄道大洗鹿島線などの鉄道、国道6号、50号、51号、118号など交通の便が良く、県庁のほか国の出先機関や大手企業の支店なども集中し、人と文化の交差点としての役割を果たしています。歴史的にも貴重な史跡が数多く、縄文時代の大串貝塚や吉田古墳、愛宕山古墳、長者山遺跡などもあり、古代からの繁栄を物語っています。

観光カレンダー

2月中旬～3月下旬	水戸の梅まつり
3月下旬～4月上旬	水戸の桜まつり
6月中旬～7月上旬	水戸のあじさいまつり
7月中旬～8月上旬	水戸黄門まつり
9月上旬～9月下旬	水戸の萩まつり

弘道館

天保12年(1841)年に徳川齊昭公により創建された日本最大規模の藩校。慶喜公も5歳から11歳までここで英才教育を受けました。正門、正庁、至善堂は国の重要文化財に指定されています。



スポット

水戸藩の「藩校」

保和苑

元禄時代、徳川光圀公(水戸黄門さま)が寺の庭を愛されて「保和園」と名づけたのが始まりといわれています。あじさいや紅葉の名所として知られています。



スポット

光圀公ゆかりの庭園

水戸芸術館

水戸市制100周年を記念した高さ100mの塔(展望室あり)、コンサートホール、劇場、現代美術ギャラリーで構成された複合文化施設です。



スポット

螺旋状のタワーが目印

水戸城大手門

明治以降に取り壊されるまで、水戸城の正門としての役割を果たしていました。令和2年に復元され、水戸城跡の風情を感じることができます。



スポット

スポット

千波湖

偕楽園の南東に位置する周囲3kmのひょうたん形の湖です。桜並木の遊歩道が湖をぐるっと囲っており、湖畔にはカフェがあります。

茨城県近代美術館

千波湖のほとりにあり、横山大観や小川芋銭、中村彝など県にゆかりの作家から、モネ、ルノワールら西洋作家の作品などをテーマに沿って展示するほか、国内外の優れた作品による企画展を開催しています。



スポット

湖畔にたたずむ美術館

水戸城二の丸角櫓

水戸城二の丸の南西角にあった二階建ての櫓で、明治以降に撤去されましたが、令和3年に復元されました。水戸城の歴史に関する資料等を展示しています。



スポット

スポット

水戸城跡二の丸展示館

日本遺産に認定された「近世日本の教育遺産群-学ぶ心・礼節の本源-」をテーマに、水戸の教育遺産の資料等を展示しています。

偕楽園

日本三名園の一つ

天保13年(1842)に水戸藩第9代藩主徳川斉昭公によって造られ、金沢の兼六園、岡山の後楽園とともに日本三名園の一つに数えられています。偕楽園の名称は、「孟子」の「古の人は民と偕に楽しむ、故に能く楽しむなり」という一節からとられています。早春には約100品種、3,000本の梅の花が咲き誇り、梅の名所として親しまれているほか、桜やつつじ、萩といったように季節によって様々な顔をのぞかせます。好文亭3階の「楽寿楼」から眺める、千波湖や田鶴鳴梅林(たづなきばいりん)、四季の原といった雄大な自然の景観は格別です。



スポット

水戸黄門まつり

令和元年にリニューアル!

水戸の夏の風物詩として愛されるまつり。国内最高峰の花火師による「水戸偕楽園花火大会」や、参加して楽しめる「水戸黄門提灯行列」や「水戸ふるさとみこし渡御」のほか、山車巡行、神輿渡御、水戸黄門カーニバルなど、多数イベントが開催されます。



イベント

水戸の梅まつり

水戸の春は梅の花から

日本遺産の偕楽園と弘道館を会場に開催されます。偕楽園では約100品種3,000本、弘道館では約60品種800本の梅が咲き誇り、期間中は様々な催しが行われます。



イベント

水戸市植物公園

令和3年にリニューアルオープン

8万㎡の広大な敷地に花壇や植物館などが集まる洋風庭園。季節のハーブや薬草を楽しむことができる「水戸 養命酒薬用ハーブ園」や花々を眺めながらくつろげる「レストランフィオレンテ」など、癒しの休日を出すスポットもおすすです。



スポット

茨城県立歴史館



スポット

茨城の歴史を実物資料、模型、レブリカや映像などで解説しています。古文書類などを一般公開する閲覧室もあります。

黄門料理



グルメ

かつて黄門さまが食したという食事を文献をもとに再現して現代風にアレンジしたものです。旬の地場食材を用い、「医食同源」の教えに基づいて作られた料理が並びます。

地酒



お土産

全国新酒鑑評会で金賞を受賞した吉久保酒造の「一品」や、明利酒類の「副将軍」などの銘酒のほか、「まちなかワイナリー」で醸造したワインなどの地酒が揃っています。

提灯



お土産

岐阜や八女とならび「提灯の日本三大産地」に数えられる水戸の提灯は、「水府提灯」の名で知られ、堅牢なつくりが特徴です。

納豆

水戸名物といえば納豆



お土産

源義家が永保3年(1083)に、水戸市の渡里町の一盛長者の屋敷に泊まった折、馬の飼料に作った煮豆の残りを藁で包んでおいたところ、煮豆が自然に発酵し、納豆ができたという伝説があります。水戸の納豆が全国的に有名になったのは、明治22年の水戸駅の開業に合わせ、駅前広場で売りに出されたのがきっかけとされています。

東北エリア

関東エリア

鹿行エリア

関東エリア

関西エリア

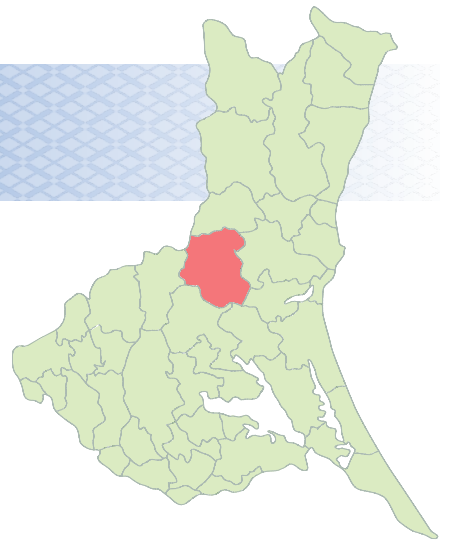
笠間市

KASAMA City

- 概要/人口: **71,901人**(令和5年1月時点)
年間観光入込客数: **2,635,400人**(令和3年)
- 由来/笠間地区(合併前の旧笠間市)の土地全体が「すげ笠」に似ており、すげ笠を裏返しにしたような土地の間に里があることから名づけられたとする説など諸説あります。
- 市の花/きく
木/さくら
鳥/うぐいす



笠間のいな吉®



豊かな自然に恵まれた笠間市は日本三大稲荷の一つ笠間稲荷神社の門前町として古くから発展。鎌倉時代から江戸時代にかけては佐白山を居城にした笠間氏によって城下町がつくられました。以降、江戸時代も発展を続け、歴史を感じる史跡や祭事、郷土芸能が数多く伝承されています。近年は「陶芸のまち・笠間」として陶芸家が多く住むことから、県内でも屈指の芸術スポットが多く、茨城県陶芸美術館や笠間日動美術館などの美術施設や窯元に多くの美術ファンが訪れます。

観光カレンダー

4月29日~5月5日	笠間の陶炎祭
4月中旬~5月上旬	笠間つつじまつり
9月下旬~10月上旬	かさま新栗まつり
10月上旬	笠間浪漫
10月下旬~11月下旬	笠間の菊まつり
12月第3日曜日	悪態まつり

笠間工芸の丘

陶芸体験が楽しめる

笠間芸術の森公園内にあり、散歩やピクニックに最適です。施設内ではろくろ、手ひねりを体験できる体験工房のほか、様々なクラフトワーク体験ができます。また、近くには「茨城県陶芸美術館」もあり、最高水準の芸術品に触れることができます。笠間焼を中心としたお土産コーナーやカフェラウンジも充実しています。

スポット



筑波海軍航空隊記念館

大戦の歴史を残す史跡

笠間市には、地下戦闘指揮所など、貴重な海軍航空隊史跡が現在も残されており、過去から未来へ目を向ける様々なきっかけを与えてくれる場所として多くの人々に感銘を与えています。ベストセラー小説をもとにした映画、『永遠の0』のロケ地にもなりました。

スポット



茨城県陶芸美術館

陶芸の魅力を紹介

「伝統工芸と新しい造形美術」をテーマに、平成12年、誰もが気軽に立ち寄れる県立美術館として開館しました。国内外の優れた作品を鑑賞できる企画展や、茨城県ゆかりの文化勲章受章者 板谷波山・重要無形文化財保持者 松井康成のコレクション展、笠間焼の歴史や技法を紹介するコーナーなど、笠間焼・陶芸の魅力を広く発信しています。

スポット



春風萬里荘



陶芸や書道など、多方面で才能を発揮した芸術家・北大路魯山人の鎌倉の住居を笠間の地に昭和40年に移築。内部には、自らが設計した茶室など、魯山人の美意識が随所にみられます。

エトワ カサマ ETOWA KASAMA



愛宕山山頂付近にあるグランピングやキャビンははじめとしたアウトドアリゾート施設。施設内にはアウトドアやファイヤープレイスがあり、非日常で上質な空間を家族や友人と過ごすことができます。

北山公園



山の起伏をそのままに活かした園内では、高さ23mの展望台や長さ161mのローラー滑り台が人気です。オートキャンプ場やバーベキュー場(要予約)は多くの家族連れで賑わいます。

石の百年館



約100年に及ぶ採石の歴史が、貴重な資料と共に解説・展示されています。外壁には、日本伝統の「杉綾文様」が取り入れられるなど、稲田石材業の加工技術の高さを物語っています。

かさま歴史交流館井筒屋



明治中期建築の「旧井筒屋旅館本館」を当時の雰囲気のまま観光交流拠点ハリノベーションした施設です。カフェや歴史展示コーナーを設け、一年を通して企画展やイベントを行っています。

笠間の菊まつり



明治41年に始まった、日本で最も古い菊の祭典です。笠間稲荷神社をメイン会場に色鮮やかな菊の花が市内全体を彩ります。

笠間稲荷神社

日本三大稲荷の一つ

1350余年の歴史を誇り、日本三大稲荷の一つとされている「笠間稲荷神社」。江戸時代末期に建てられた御本殿は、彫刻が優れていることから、昭和63年に国の重要文化財に指定されています。御祭神は宇迦之御魂神(うかのみたまのかみ)。生命の根源を司る「いのち」の根の神として、農業、工業、商業、水産業などあらゆる殖産興業の守護神として、人々の生活すべてに御神徳を授けてくださる神様です。境内に生える二株の藤は、樹齢400年にも及ぶもので、八重の藤は、昭和42年に県の天然記念物に指定されています。



スポット

かさま新栗まつり

栗づくしのおまつり

全国でも有数の栗産地として、さらなるブランド力向上を目指すために開催している「栗」をテーマとしたまつりです。生栗や焼栗、栗スイーツなどの販売のほか栗拾い体験や栗のゲームなどが催され栗づくしのイベント盛りだくさんです。



イベント

笠間の陶炎祭

笠間が陶器色に染まる

200名を超える作家や窯元が参加し、毎年多くの観光客で賑わう笠間焼の一大陶器市。期間中は笠間焼の展示販売はもちろんのこと、「笠間長石シリーズ展」などの企画展や作家が制作した「ぐい呑み1000個展」などが行われます。また、地元小学生が制作した土面を一堂に展示する「土面フェスティバル」など内容も盛りだくさんです。



イベント

悪態まつり

一風変わったまつり

13人の氏子が白装束姿の天狗に扮して16か所のほこらにお供え物をして回ります。この時に悪態(悪口)を言い合い、天狗に邪魔されながらお供え物を奪い合うという変わったお祭りです。先を争ってお供え物を奪い、これを制止する青竹の音と参詣者の大声でわめく「ばかやろう」などの悪態が神聖静寂な境内にこだまします。



イベント

笠間つつじまつり

笠間の地酒



イベント

昭和42年、市民による「つつじ一株運動」により始まりました。園内には様々な品種のつつじが植えられており、最盛期には小高い山一面が真っ赤に染まります。



お土産

笠間市では、平成25年12月に「笠間市地酒を笠間焼で乾杯する条例」を制定。笠間の地酒を笠間焼の器で乾杯する習慣を広めることで、まち全体を盛り上げています。

笠間いなり寿司

笠間名物のいなり寿司

ご当地グルメ「笠間いなり寿司」。笠間といえば笠間稲荷神社、稲荷神社といえばキツネ、キツネといえば油揚げ、油揚げといえば「いなり寿司」。その特徴は、そば・くるみ・舞茸など様々な素材を使った「変り種いなり寿司」という点。お店によって様々な種類のいなり寿司を提供していますので、それぞれのお気に入りを探すのもおすすめです。



グルメ

笠間の栗

全国有数の栗の産地

笠間市は、全国有数の栗の産地となっており、穏やかな気候と火山灰土壌により、日本一と名高い栗が生産されることで知られています。毎年秋には、今人気のモンブランや栗スイーツなどが楽しめる「かさま新栗まつり」も開催され、期間中には多くのお客様で賑わいます。秋の味覚の代表格、日本一の笠間の栗をぜひご賞味ください。



グルメ

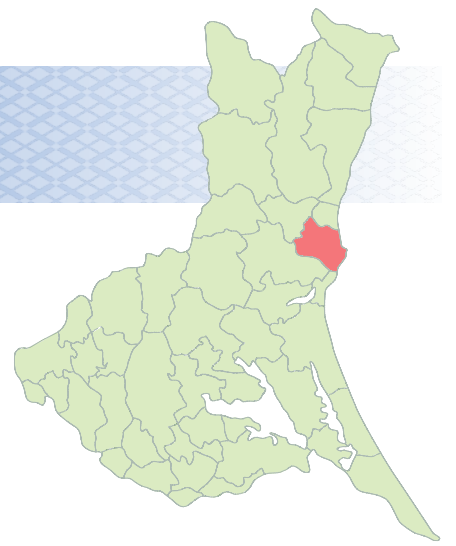
ひたちなか市

HITACHINAKA City

- 概要/人口: **154,770人**(令和5年1月時点)
年間観光入込客数: **2,726,300人**(令和3年)
- 由来/この地域が旧国名「常陸(ひたち)」の中心に位置する事と、かつて属していた郡名の「那珂(なか)」から「ひたちなか」となりました。
- 市の花/はまぎく
木/いちよう
鳥/うぐいす



みなとちゃん



ひたちなか市は県のほぼ中央部からやや北東に位置し、東京駅から特急で約90分の距離です。東京-仙台を結ぶ国道6号は市の西側を、海岸寄りには国道245号が通っており、ともに交通の枢軸をなすとともに、近年常磐自動車道に加え北関東自動車道、東水戸道路と高速道路も整備され、首都圏や北関東からのアクセスも良好です。国営ひたち海浜公園や那珂湊おさかな市場、ひたちなか海浜鉄道湊線などは観光客の人気を集めています。全国から2万人を超えるランナーが参加する勝田全国マラソンなどスポーツイベントも盛んです。

観光カレンダー

4月上旬~5月下旬	Flowering
7月下旬~8月上旬	阿字ヶ浦海岸花火大会
8月~9月	那珂湊海上花火大会
8月中旬~下旬	ひたちなか祭り・花火大会
10月上旬~下旬	コキアカーニバル

那珂湊おさかな市場

新鮮な魚介類が、お手頃な価格で販売されている市場は、年間100万人を超える買い物客で賑わいます。旬の海鮮料理や回転寿司など、港町ならではの食事も多数軒を連ねています。



海の幸を堪能♪

ひたちなか海浜鉄道湊線

大正2年に運行を開始した歴史ある鉄道です。車窓からは、広大なも畑や田園風景が広がり、CMや映画の撮影場所としても利用されています。魅力溢れる「14.3kmのタイムトラベル」をお楽しみください。



レトロな雰囲気が人気

阿字ヶ浦海水浴場



約1.2kmの美しい海岸線を有する海水浴場には、夏になると県内外から訪れる多くの海水浴客で賑わいます。周辺には、ショッピングモールや日帰り温泉施設もあり、一日中楽しめます。

平磯海水浴場



堤防に囲まれ波が穏やかなため高波の心配がなく、家族で安心して楽しめます。海に浮かぶくじら型の滑り台「くじらの大ちゃん」は子供たちに大人気です。周辺には岩場があるので、磯遊びも楽しめます。

ほしいも神社

令和元年に建立された神社。ご神徳は「ホシイモノ(欲しいもの)は総て手に入る」。黄金(ほしいも色)の鳥居はSNS映えすると話題です。



黄金の鳥居が話題!

酒列磯前神社

斉衡3年(856年)創建。ご神徳は「病気平癒」。境内に佇む亀の石像は、神社にお参りしてから頭をなでるとご利益があると言われており、観光客に大人気です。



亀をなでて運氣アップ!

勝田全国マラソン

60回を超える歴史と伝統のある大会には、全国から2万人を超えるランナーが参加します。参加者には、市の特産品である「完走いも」が配布され、上位入賞者は、世界最古の歴史を持つポストンマラソンに派遣されます。



2万人超のランナーが参加

国営ひたち海浜公園

花のテーマパーク

春はスイセン、チューリップ、ネモフィラが次々にバトンをつなぎ、華やかな世界を造りだします。なかでも、ネモフィラは、書籍『死ぬまでに行きたい!世界の絶景』など様々な書籍やメディアに取り上げられ、絶景スポットとして国内外から注目されています。空・海と共に創りだされる青一面で埋め尽くされたネモフィラの絶景は必見です。また、夏になると、ふわふわとした緑葉のコキアが秋には紅葉し、丘一面を真っ赤に染め上げます。そのほかにも茨城県花のバラが年二回咲き誇るなど、一年を通して様々な種類の花々を楽しむことができる「花の楽園」です。また、園内をめぐるシーサイドトレインやサイクリング、遊園地エリアのプレジャーガーデンも幅広い世代に人気です。



スポット

ひたちなか祭り

市民による手作りのお祭り

二日間にわたって開催されるお祭りです。初日の花火大会は、目の前で打ち上げられるダイナミックな花火を楽しむことができ、中でもフィナーレのメロディ付きジャンボスターマインは圧巻です。2日目はひたちなかソング「素敵な明日のために」で踊りを競う市民ダンスパレードや市民山車・神輿などが行われ、毎年、世代を問わず楽しめるユニークなイベントが企画されています。



イベント

那珂湊海上花火大会



イベント

尺玉、スターマインなど約1,600発が海上を彩ります。まるで水中で光の花が咲いたように見える水中スターマインは人々を魅了します。

阿字ヶ浦海岸花火大会



イベント

尺玉や海上スターマイン、ユニークな創造花火など約2,500発が打ち上げられます。磯崎漁港の堤防から打ち上げられるため、まるで海から花火が打ち上がっているように見えます。

みなとメディアミュージアム(MMM)

アートによる街おこし

街の活性化を目的に、アート作品が駅に展示されるなど、平成21年から開催されている現代アートプロジェクトです。駅名標では初となる「グッドデザイン賞」を受賞した、ひたちなか海浜鉄道湊線の駅名標は必見です。



イベント

アートは地域を変えられる

MMM

みなとメディアミュージアム

那珂湊焼きそば

B-1グランプリにも出展

60年以上前から地元で愛される漁師町生まれのご当地焼きそば。手間をかけたコシと、もちりとした食感の「手延べせいろ蒸し」麺が特徴で、日本最大級のまちおこしイベント「B-1グランプリ」でおなじみの愛Bリーグ加盟団体「那珂湊焼きそば大学院」応援店で提供されています。店舗ごとに様々なアレンジをしているので、食べ歩きにもおすすめです。



グルメ

あんこう鍋

鍋の王様

「東のあんこう、西のふぐ」と呼ばれ、11月から3月にかけて味わえる茨城の代表的な冬の味覚です。あんこうは、脂肪が少なく低カロリーで、コラーゲンも豊富。老化防止や美肌効果があるのも、女性にうれしいポイントです。常磐沖を望む「那珂湊漁港」を有するひたちなか市で、冬の味覚あんこう三昧をぜひどうぞ。



グルメ

ほしいも

生産量日本一!!

厳選されたさつまいもをふっくらと蒸し、天日乾燥。無添加で食物繊維やミネラル分をたっぷり含むほしいもは、どの世代にも安心してお召し上がりいただけます。茨城県のほしいもは国内シェア9割を誇ります。なかでもひたちなか市は、茨城県内のほしいもの大部分を生産している、日本一の産地で、500名を超えるほしいも農家が自慢のほしいもをお届けします。



お土産

小美玉市

OMITAMA City

■概要/人口: **49,224人**(令和5年1月時点)

年間観光入込客数: **1,008,300人**(令和3年)

■由来/平成18年に「小川町」「美野里町」「玉里村」が合併し、歴史ある3町村の頭文字の1文字をとって「小美玉市」と命名。

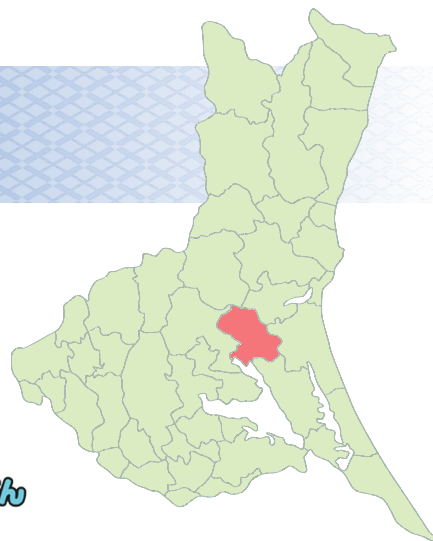
小さな玉が美しく磨かれていく、そんな夢の持てる市になるようになど、市を愛する多くの人々のさまざまな想いがあります。

■市の花/コスモス

木/ケヤキ
鳥/シラサギ



小美玉市マスコットキャラクター「おみたん」



観光カレンダー

4月上旬	小美玉さくらフェスティバル
7月上旬	小川祇園祭
7月下旬	アワアワ祇園
8月下旬	玉里魔神祭

茨城県の中南部、霞ヶ浦の北端に位置し、市の東部には航空自衛隊百里基地と民間共用化した「茨城空港」があり、北関東の空の玄関口として、国際線をはじめ、札幌・神戸・福岡・沖縄など人気都市を結ぶ重要なアクセスとなっています。また、農業も盛んで、生乳の生産量は県内第1位、鶏卵の生産量は全国で1位になったこともある畜産大国でもあります。さらに、ヒーリングスポットでもある霞ヶ浦湖岸から、年に数回しか見ることのできない、筑波山に太陽が沈む「ダイヤモンド筑波」は感動の光景です。

茨城空港

空の旅をもっと手軽に

ローコストで使い勝手のよい空港として注目を集めています。なんと、駐車場は何日停めても無料。航空機を間近で見られる展望スペース、レストランもあり、お土産も豊富です。また、茨城空港では様々なイベントが開催されています。

スポット



空のえき「そ・ら・ら」

空港から近い「食」のスポット

素敵な笑顔にあえる食彩ひろばとして地元小美玉市の豊かな「食」を楽しめます。茨城空港から500mの場所に位置し、直売所、レストラン、ヨーグルトハウスなどをお楽しみいただけます。地域資源やその魅力を生かし、地産地消、交流、地域再生の拠点を目指す地域住民の思いが詰まった場所です。

スポット



ダイヤモンド筑波

スポット



毎年5月中旬と7月中旬の年2回しか見られない夕景。筑波山の頂上付近に太陽が沈む景色は、幻想的で貴重な瞬間です。

カゴメ工場見学

スポット



カゴメの工場見学では、カゴメの歴史や現在生産している野菜ジュースについて学ぶことができます。見学の最後には、試食タイムもあります。

小川祇園祭

祇園祭のはしりとも言われる祭り

素戔神社の祭事で、約480年前に園部城主によって始められたと伝わり、祇園祭のはしりともいわれるお祭です。祭では山車や獅子が巡行し、賑やかなお囃子が響き渡ります。最終日には神輿が小川地内を練り歩き、多くの見物客が集まります。祇園祭当日は、歩行者等の交通安全を図るため、一部区間で交通規制が行われます。

イベント



小美玉温泉湯～GO!

琥珀色の湯でリフレッシュ

琥珀色の天然温泉を使用しており、露天風呂やサウナ風呂もあります。館内にはレストランやマッサージ、売店などもあり、お食事や休憩にもピッタリの施設です。

スポット



サイクリングロード

スポット



霞ヶ浦湖畔沿いにあり春には菜の花、秋にはコスモスが咲き誇るサイクリングロード。広大な霞ヶ浦や筑波山を眺めながらのサイクリングは爽快です。

希望ヶ丘公園のコスモス畑

スポット



希望ヶ丘公園近くの田んぼ一面に、咲き誇るコスモス畑。毎年9月下旬頃～10月中旬頃にかけて見頃を迎え、花の摘み取りもできます。

茨城町

IBARAKI Town

■概要/人口: **31,098人** (令和5年1月時点)

年間観光入込客数: **417,100人** (令和3年)

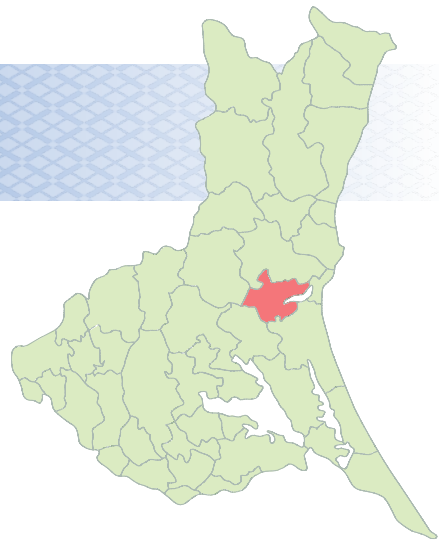
■由来/昭和30年に長岡村、川根村、上野合村、沼前村が合併。

町名は公募によるもので、選定の理由は「茨城県の中央部に位置し、将来市政の発展において県下第一位の代表的な町として永く存続繁栄さすべき意味をあらわした」とあります。

■町の花/桜 木/梅 鳥/うぐいす



ひめ丸くん



茨城県のほぼ中央部に位置し、町の東部には湖、涸沼が位置しています。涸沼は海水が流入するため、淡水魚と海水魚が共存し、良質のヤマトシジミの産地にもなっています。絶滅危惧種に指定されているミズアオイも生息、ヨシやイグサなどの密生する汽水域には新種「ヒヌマイトトンボ」もあり、水辺の静かな自然の風情が楽しめます。農産物を紹介する体験型レジャー施設「ポケットファームどきどき」があり、名産のメロンやイチゴをはじめ、産直の新鮮な野菜や加工品が購入できます。

観光カレンダー

6月中旬~7月上旬	ひめまあじさいまつり
7月下旬	あんばまつり
11月上旬	いばらきまつり
12月	ひめまdeマルシェ

涸沼自然公園

涸沼を一望できるスポット

涸沼を一望できる「太陽の広場」、石のモニュメントが美しい「展望広場」、遊具のある「わいわい広場」、約1万株のあじさいが楽しめる「あじさいの谷」、丘の間を小さな溪流が流れる「せせらぎ広場」などがあり、四季折々の味わいを楽しむことができます。公園の一部にオートキャンプサイトを兼ね備えたキャンプ場が併設されています。

スポット



涸沼

ラムサール条約湿地登録!

涸沼は、関東地方では唯一、淡水と海水が混じり合う汽水湖です。涸沼で発見された絶滅危惧種のヒヌマイトトンボが生息していることでも有名。平成27年5月にはラムサール条約湿地に登録されました。ラムサール条約は水鳥が生息する重要な湿地とその動植物の保全などを目的とした条約であり、涸沼の自然環境が国際的に認められました。

スポット



ポケットファームどきどき

旬な野菜・果物・ハム・ソーセージが揃う

ポケットファームどきどきは、「自然」と「農業」と「食べ物」をテーマにした、農業体験型レジャー施設です。獲れたての旬の野菜・果物そして手作りハム・ソーセージ、パン等の加工品も販売しています。また、「森のペーカリー&カフェ」や親子で体験できる「ソーセージ教室」なども人気です。

スポット



涸沼自然公園キャンプ場

スポット



涸沼自然公園の中にある涸沼自然公園キャンプ場。AC電源付きオートキャンプサイトは56区画、テントサイトは最大250張が設営できます。

涸沼のしじみ

お土産



涸沼の銘産として知られるヤマトシジミは、淡水と海水が混じる汽水域にのみ生育します。現在数が減ってきており、大涸沼漁業協同組合による種苗生産などの取り組みが行われています。

ひめまあじさいまつり

1万株のあじさいがお出迎え

平成7年に全面オープンした涸沼自然公園には「あじさいの谷」があり、オープンした当時は株が少なかったため町の花生産組合から寄贈されたあじさいを植栽しました。約1万株の花が見頃になった平成22年から「あじさいまつり」を開催することになり、毎年多くの方が訪れるようになりました。

イベント



あんばまつり

湖上に浮かぶお山車が特徴

天保9年(1838)下石崎広浦地区に天然痘が流行り、桜川村阿波(現在:稲敷市)の大杉神社の分霊を祭ったところ治まったのが始まりといわれています。阿波の大杉神社は水上安全の神様ともいわれており「あんばさま」の通称で信仰されています。涸沼の水面上に「浮かぶ山車」が登場する全国でも珍しいお祭りで、おかめ・ひょっとこ・キツネなどの面をかぶりお囃子に合わせ踊りを奉納します。

イベント



県北エリア

県央エリア

鹿行エリア

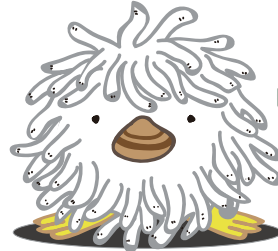
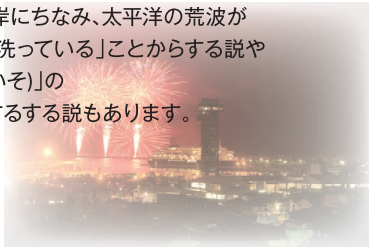
県南エリア

県西エリア

大洗町

OARAI Town

- 概要/人口: **15,932人**(令和5年1月時点)
年間観光入込客数: **2,812,400人**(令和3年)
- 由来/波が砕け散る海岸にちなみ、太平洋の荒波がこの地を「大きく洗っている」ことからする説や「大荒磯(大あらいそ)」のなまったものとする説もあります。
- 町の花/つつじ
木/松
鳥/かもめ



大洗町イメージキャラクター「アラIPP」



茨城県の太平洋岸のほぼ中央に位置する大洗町。ゆるやかな浜が続くビーチは、海水浴やサーフィンのメッカとなっており、県内屈指の海のレジャースポットです。また「大洗」という記述は平安時代の文献にもみられるほど歴史は古く、大洗磯前神社や願入寺など歴史ある寺社仏閣や東北地方と江戸を結ぶ水運の中継地として街も栄えてきました。日本三大民謡の一つである「磯節」が伝承されていたり、八朔祭など伝統的な祭りにその名残が残っています。四季折々で豊かな海の味覚を楽しむことができ、はまぐりや牡蠣、しらす、あんこうなどが名物です。

観光カレンダー

- 3月中旬 大洗春まつり海楽フェスタ
- 8月下旬 大洗八朔祭
- 8月中旬 大洗インターナショナルフィッシングフェスティバル
- 9月下旬 大洗海上花火大会
- 11月中旬 大洗あんこう祭

大洗サンビーチ海水浴場

大洗を代表する海水浴場

快水浴場百選にも選定され、澄んだ水と広いビーチが特徴の美しい遠浅の海岸。波がそれほど高くないので子どもと一緒に安心して泳ぐことができ、入込客数は県下一を誇る。また、ユニバーサルビーチとして、障害を持った人でも安全に海水浴が楽しめるよう水陸両用の車いすの無料貸し出しや、専用駐車場、更衣室なども完備しています。



スポット

ひたちなかエネルギーロジック大洗マリンタワー

大洗のシンボルタワー

地上60mの大洗のシンボルタワー「大洗マリンタワー」。太平洋の一大パノラマが堪能でき、富士山、日光那須連山、筑波山を望むことができます。1階にはお土産館や観光案内所、2階には人気アニメ『ガールズ&パンツァー』とのコラボレーションカフェ「ガルパン喫茶Panzer vor」もあり、県外からも多くの人々が訪れています。



スポット

大洗磯前神社

関東一の大鳥居で有名

古くから「大洗さま」と親しまれてきた神社。平安時代に創設され、難病治療、家内安全、商売繁盛など、人々に幸を授けてくれます。拝殿は入母屋造で茨城県の文化財に、随神門は大洗町の文化財にそれぞれ指定されています。また、併設する大洗海洋博物館には、古来より使用されてきた海具や漁場模型が展示されています。



スポット

神磯の鳥居



スポット

平安時代前期の斉衡3年(856年)、神が降り立ったと言われる地。鳥居から昇る日の出を拝もうと大勢の人が訪れます。また、徳川光圀公が景観を称えた場所でもあります。

大洗キャンプ場



スポット

「森林浴の森100選」に選ばれた美しい松林のなかにある大型キャンプ場。広大な敷地で、のびのびとサイトアレンジが楽しめます。

大洗サンビーチキャンプ場

波の音と潮風を味わう!

大洗サンビーチ海水浴場に隣接した、太平洋を望む丘に広がるバリアフリー対応のキャンプ場。レンタルサービスも充実しており、初心者でも安心してキャンプを楽しめます。



スポット

大洗町商店街

様々なイベントを実施

TVアニメ「ガールズ&パンツァー」の舞台となった商店街には、各商店にキャラクターパネルや戦車パネルが設置してあります。また、商店街に来た人がお店に入りやすいように店主のパネルを設置し、本日のおすすめメニューなどを掲載しています。



スポット

アクアワールド茨城県大洗水族館

サメの飼育種類数日本一!

約580種68,000点の世界の海の生物に出会うことができる水族館。特にシンボルマークであるサメの飼育に力を入れており、サメの飼育種類数は約60種で日本一になります。人気は全天候型のオーシャンシアターで開催される「イルカ・アシカオーシャンライブ」。バックに大洗の海を臨めるホールで、愛嬌たっぷりのアシカやダイナミックなイルカの演技が繰り広げられます。また、日本一の大きさであるマンボウ専用水槽や世界最大級のマンボウ剥製、世界最大のウバザメ剥製なども見ることができます。そのほか水族館では日本最大級のキッズコーナーなどがあります。



スポット

商工感謝祭&大洗あんこう祭

冬の味覚あんこうを堪能する毎年恒例のイベント。あんこうの吊るし切りやあんこう汁の販売など、あんこうにちなんだ催しものが盛りだくさん。地元の特産品や飲食店なども出店し、まさにグルメの祭典といった雰囲気です。



イベント

大洗最大級のお祭

大洗インターナショナルフィッシングフェスティバル



イベント

カジキ釣りの国際大会をはじめとして、ステージイベント、海上保安庁音楽隊や大洗高校マーチングバンド部のコンサート、ご当地グルメブース、体験コーナーなど、釣りファンはもちろん家族連れまで楽しめるイベントが実施されます。

大洗八朔祭



イベント

四海平穏、五穀豊穡を祈願するお祭り。毎年8月下旬に開催。宵祭として山車が町内をまわり、本祭は大洗町商店街が歩行者天国となり、模擬店、山車巡業、神輿渡御などが行われます。

岩ガキ



グルメ

夏バテに即効力があると広く食べられている岩ガキは、冬ガキの2~3倍の大きさが特徴。特にこの時期は産卵を控えているため、旨味も栄養もたっぷりです。プリッとした触感とクリーミーなとろけ具合が生食の魅力です。

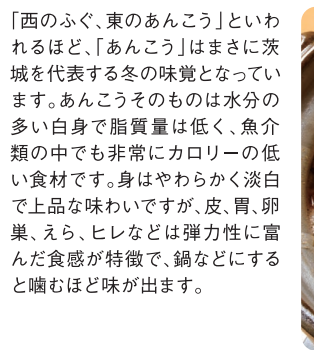
生しらす丼



グルメ

生しらす丼といえば、大洗町漁協直営店「かあちゃんの店」。大洗港で水揚げされた旬の地魚を多くの人に気軽に楽しんでもらいたいという漁師の奥さんの想いからオープンしたお店です。

あんこう鍋



グルメ

「西のふぐ、東のあんこう」といわれるほど、「あんこう」はまさに茨城を代表する冬の味覚となっています。あんこうそのものは水分の多い白身で脂質量は低く、魚介類の中でも非常にカロリーの低い食材です。身はやわらかく淡白で上品な味わいですが、皮、胃、卵巣、えら、ヒレなどは弾力性に富んだ食感が特徴で、鍋などにすると噛むほど味が出ます。

冬の風物詩・あんこう

たらし



グルメ

もんじゃ焼きにも似た大洗のご当地グルメ。小麦粉を水でゆるく溶き、キャベツや切りイカ、卵、ネギなどお好みの具材を入れて醤油やソースで味付けしたシンプルな鉄板焼きです。

みつだんご



グルメ

小麦粉で作った団子を焼いて串に刺し、砂糖や醤油、片栗粉などを混ぜた「みつ」を絡めさせ、きな粉をまぶした、大洗を代表するスイーツ。大正時代から続くこの土地のおやつです。

大洗ブランド認証品

大洗町のイメージ、特色ある地域資源を活用し、優れた農産物、水産物および加工品を大洗ブランドとして認証。これまで観光色の強かった本町に「食」のイメージを融合させ、更なるイメージアップと地域活性化を目的としています。大洗ブランド認証品となった紅あずま、大洗産冷凍生しらすなど令和5年3月現在で33品目になります。



お土産

大洗名産の紅あずま

県北エリア

県央エリア

鹿行エリア

県南エリア

県西エリア

城里町

SHIROSATO Town

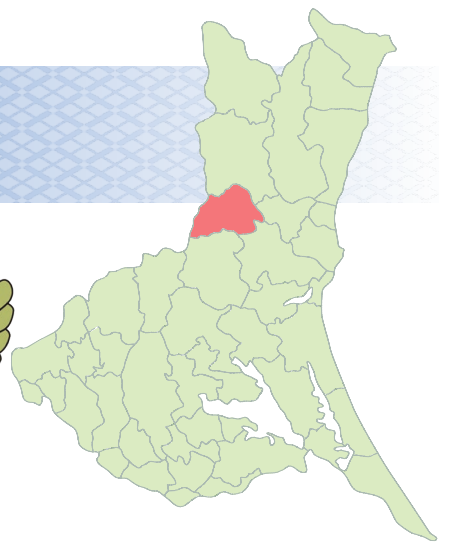
■概要／人口：**17,489人**(令和5年1月時点)
年間観光入込客数：**426,700人**(令和3年)

■由来／当地域が水戸城の北に位置し、昔から「城北(しろきた)地区」と呼ばれていたことから「城」。各町村に「ふれあいの里」「うぐいすの里」「山びこの郷」があったことや、日本のふるさとのイメージがあることから「里」という字を使い「城里」と命名。

■町の花／山ゆり
木／スダジイ
鳥／うぐいす



ホロル



観光カレンダー

4月上旬	城里町花まつり
6月中旬	青山花しょうぶ園開園
7月下旬	しろさと七夕まつり
8月中旬	しろさとふるさとまつり
11月中旬	ホロルのたまご〜しろさと町民まつり〜

県の北西部に位置し、那珂川・藤井川・皇都川などの豊かな水源と、肥沃な大地を利用した稲作や園芸作物の栽培が盛んに行われています。お米をはじめ、古内茶・赤ネギなどの特産品や伝統の漆工芸である「栗野春慶塗」も有名です。また、「桂の雛人形」は全国でも少なくなった手づくりの雛人形です。キャンプや釣りなどが楽しめるレジャー施設「ふれあいの里」や温泉施設「ホロルの湯」、町内に7つあるゴルフ場などには県内をはじめ首都圏からも多くの方が訪れます。

御前山(皇都川)

関東の嵐山と呼ばれている

那珂川と織りなす景色は「関東の嵐山」と呼ばれています。標高156mで、子どもから大人まで気軽に登ることができます。昔、孝謙天皇が弓削道鏡を追い、密会していたという逸話が残っています。また、孝謙天皇がここに住んでいたということから、「御前」山の名前の由来になっています。皇都川は、御前山から那珂川に注ぐ川で、下流は伏流水で、見た目には枯れた川のように見えます。昔は洪水が頻繁に起き、これを弘法大師がお経を読んで、鎮めたため、水が流れていないといわれています。



スポット

鶏足山

弘法大師伝説の残る山

標高430.5m。弘法大師が修行した山といわれており、鶏石や護摩焚石などの逸話が残されています。鶏石は鶏の鶏冠のような形をしており、弘法大師が山中で鶏の鳴き声を聞いた際に石を見つけ、この石が鳴いたのだらうと考えたことが名前の由来と伝えられています。護摩焚石は、弘法大師が石の上で護摩を焚いて修行したという伝承からその名が付けられたとされています。



スポット

ホロルの湯



スポット

「ホロルの湯」の泉質は、身体にやさしい単純アルカリ性で、神経痛、筋肉痛、関節痛、五十肩、打身、慢性消化器病などに効果があります。

ふれあいの里



スポット

水戸ICから車で10分。キャビンやオートキャンプ場、バーベキューエリアがあり日帰りでも宿泊でも身近に自然を楽しむキャンプ場です。

古内茶



お土産

茨城県三大銘茶の一つ。一番茶のみの生産で、ゆたかな香りと渋み、甘みの特徴です。かの水戸光圀公もその味の良さに感嘆したといわれています。

レッドポアロー



お土産

茨城県三大伝統野菜。鮮やかな赤紫色が特徴の赤ネギです。白ネギに比べ甘みが強く、熱を通すとさらに甘みが増し柔らかくなり、葉まで食べられます。

ななかいの里コシヒカリ

お米日本一コンテストで最優秀賞

七会地区は、古くから良質米の生産地として知られ、かつては水戸藩への献上米に選ばれていた米どころです。この土地で、昼夜の寒暖差やよい水、よい土を味方につけ、厳しい管理のもと作られたななかいの里コシヒカリは、平成23年にお米日本一コンテストで最優秀賞に選ばれ、その後も毎年入賞を果たしているブランド米です。噛めば噛むほど味がふくらむ飽きのこないおいしさです。



お土産

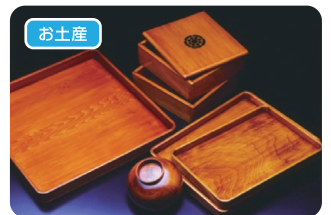
桂の雛人形



お土産

茨城県伝統工芸品にも指定されている全国でも少なくなっている手作りの雛人形。素材を吟味し、伝統的な工法によって生み出された雛人形です。

栗野春慶塗



お土産

日本三春慶の一つに数えられる日本最古の春慶塗。春慶塗は器物に透明な漆を塗り、木目が美しく透けるように仕上げられる漆塗りの技法です。(県伝統工芸品)

県央地域周遊コース



1 偕楽園
＜水戸市＞



2 しらす丼
＜大洗町＞



3 アクアワールド
茨城県大洗水族館
＜大洗町＞



4 国営ひたち海浜公園
＜ひたちなか市＞



茨城県の豆知識②

『茨城県のナンバー1たち』



アクアワールド 茨城県大洗水族館
大洗町

サメの飼育種類数日本一の水族館

約580種68,000点の世界の海の生物に出会うことができる水族館。特にシンボルマークであるサメの飼育に力を入れており、サメの飼育種類数(約60種)は日本一です。



牛久大仏
牛久市

ギネスブック認定、世界最大120mの立像大仏

青銅製の立像としては世界最大の高さを誇る牛久大仏(正式名称:牛久阿弥陀大佛)。阿弥陀如来は方便法身の大尊形として顕現されたもので、総重量は4,000トン、高さは阿弥陀如来の十二の光明にちなんで120mとされています。



茨城県立国民宿舎「鶴の岬」
日立市

宿泊利用率34年連続日本一を誇る絶景国民宿舎

「鶴の岬」は、昭和46年に開業した太平洋を臨むリゾート型の宿泊施設で、平成元年度以降34年連続で国民宿舎の宿泊利用率第1位に輝いています。「鶴の岬」が建つ約15haの伊弉浜国民保養地には、四季折々の美しい自然が広がります。



奥日立きららの里
日立市

気分爽快!
日本一長い滑り台

奥日立きららの里のすべり台「わくわくスライダー」は、全長1,188メートル、877メートルの滑走部を滑り降りる日本一長い滑り台です。山頂からブレーキ付きのスレッド(ソリ)に乗って斜面を駆け抜ける、スリル満点の体験をすることができます。